

平成29年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名 平成29年度山村活性化支援交付金事業

2. 事業実施主体名 坂本地域山村活性化協議会

3. 事業概要

・事業目的  
地域振興の中心となる集落営農法人を設立し、米のブランド化を図ることで地域内の所得や雇用の増大を目的とする。  
また、本事業に取り組むことによって、集落のコミュニティ形成及び農業・農村の多面的機能の維持が困難な状況から脱却し、地域の活性化に繋げる。

・事業費・交付額(単位:円) 事業費 5,700,000円 交付額 5,700,000円

・事業実施期間 平成29年4月1日 ～ 平成30年2月26日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

本事業では、集落営農法人を設立し、米のブランド化に取り組むことで、雇用と所得の向上を図ることが目標であった。

昨年度法人を設立し、新規雇用人数を達成することができた。

平成29年度の事業については、ブランド米の栽培方法の確立及び販売先や販売方法の検討であったが、「熊本県推奨うまい米基準」トップクラスのSランク(グリーン農業マーク有)の届出が受理され、試験圃場で栽培された「くまさんの力」が日本穀物検定協会食味ランキングでAの評価を受けるなど栽培方法の確立については評価ができる。

また、「エコファーマーの認定」、「くまもとグリーン農業宣言」を行い、法人が集積した全ての圃場において環境保全型農業に取り組んでいることが、集落の美しい環境を守っていく取り組みとしても消費者に安心・安全な商品を提供する取り組みとしても評価ができる。

販売先については、近隣や市内の飲食店、地元の学校給食への納入、市職員、県職員への注文販売、五つ星の米穀店等への納入実績ができています。

販売方法については、29年産から安全・安心・おいしいお米を直接消費者に届ける取り組みを始めており、29年度決算において従事分量配当及び利益準備金で目標値を上回ることができた。以上のことから、十分に目標が達成されている。

(2) 取組状況

平成28年度に29年度設立予定だった集落営農法人が前倒しで設立でき、農地集積もできたことから、本年度は本部会議を中心に「ブランド米確立部門」「販売戦略部門」の2つの専門部会に集中し活動を行った。それぞれ連携機関と連携し、「ブランド米確立部門」においては、年間計6回の打合せ会議、現地検討会を実施し、試験圃場において、ブランド米(特別栽培米)の取り組みを行った。

「販売戦略部門」においては、マーケティング調査に基づいた戦略策定を行い、年間計8回の打合せ会議を実施し、「鶴喰米を通じ消費者と親戚のようなお付き合いをしていく」というコンセプトで販売方法の検討を行った。

また、ロゴの作成、米袋のデザイン、リーフレットの作成、のぼり、タペストリーの販促グッズのデザインを検討し試作品を作成した。

他に、九州圏内の米穀店訪問、2回のPR会の実施(福岡市)、収穫祭の実施、テレビ出演等の取り組みも行った。

(3) 事業実績

・鶴喰米のブランド化に向け、品種、栽培方法の検討(特別栽培米)及び試験圃場の土づくりを実施。

(熊本県推奨うまい米基準のSランク届出が受理された)

・米の食味分析(県)

・国産米の市場分析及び鶴喰米のマーケティング戦略検討

・鶴喰米の魅力発信のためのフィールドワーク

・米袋、ロゴ、手提げ袋、リーフレット、幟旗タペストリーのデザイン・試作品作成

・「秋の山里収穫祭in鶴喰」体験イベントを開催

・九州圏内の米穀店へPR活動

・「坂本ふるさとまつり」において、試験栽培した米の試食、坂本地域の米コンテストを実施

・地元小学校、中学校で鶴喰米の試食会を実施。その後納入している。

・「やっしろプロモーションin九州広場」(福岡市役所前)において、鶴喰米の試食会・PR活

動(2回実施)

- ・地元のお正月特別テレビ番組において、五つ星マイスターと鶴喰米のPR
- ・八代市ふるさと納税の返礼品(米)
- ・「ディスカバー農山漁村の宝」へ応募(他薦)

(4) 実施体制

「ブランド米確立部門」については、県、市、JA等と十分連携し事業を行うことができた。  
「販売戦略部門」については、市フードバレー推進課、県、市、JA、委託業者と十分連携し事業を行うことができた。

(5) その他事項

特になし

5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
販売額、雇用等に関する指標			
新規雇用人数(人)	5	38	760%
新規事業に伴う所得の向上(千円)	1000	1420	142%

(計測方法) ・集落営農組織(法人)の参加人数

・集落営農組織(法人)の各個人への支払い額及び内部留保額を決算書で確認

・所見 元JAやつしろ営農部長 平野和臣 元八代市農林水産部長 橋口尚登

本事業の柱である農事組合法人の設立及びブランド米の取組みについては、当初の想定より前倒しで順調にできている。

所得や雇用に関する目標を達成し、地域の活性化に繋げていくためには、ブランド米の販売力の強化、園芸作物の導入、六次産業への取組みが必要で、本事業については本年度が最後となったが、今後は、農事組合法人鶴喰なの花村が集落のリーダーとして、引き続き連携機関と調整を図りながら取り組んでほしい。